

エリアコーディネーターとの 協働について

実践の取り組み内容(通学区域のACとの協働)

- ①【小中】エリアコーディネーター育成講座と
【特別支援学校】次世代コーディネーター育成講座(6月)
に参加し、一緒に協議・検討した。
- ② サポートファイル調整会議の事前会議(1月)に
特別支援学校コーディネーターが同席し、協議・検討した。

実践の成果と学び

【授業見学、アセスメント結果の分析】

- ① 個の分析の協働(特支Co・・・行動分析、AC・・・アセスメント結果から予想される困難さの検討)
 - ② 相談校への手立ての提案(特支Co・・・個別、AC・・・集団を生かした学級づくり・授業づくり)→他校に直接関わる→同僚性を生かした指導力の向上
- 【他市町の学校への関わり】
- ③ Coとしてネットワークの幅が広がった。
 - ④ ACが所属する市町と他市町との比較ができ、互いの長所や課題を知る機会を持てた。
- 【特支CoとACとのつながり】
- ⑤ 普通校のCoは校内1名が多い。→孤立化を防ぎ、互いのスキルを共有できる。
(地域AC)

実践の課題

- ・普通校で勤務しながら、在籍校の校務(授業に支障のない範囲で)との兼業では、ACとして十分な仕事をするのは難しい。
(地域AC)
- ・エリアコーディネーターについて周知が不十分で、実践までには至っていない。
(通学区域AC)

実践活動の今後に向けて

- ・特支Coと協働しながら、地域の子どもをACとして必要に応じて支援する。
→その子にとって支援が必要でなくなる日を目指す。
- ・支援した子どもがその子らしく生きられるよう、義務教育終了後の進路・大人になった姿のビジョンを描きながら支援する。
- ・こ幼保、小学校、中学校といった、繋がる校種の結び目になりたい。
(地域AC)
- ・ACの仕組みを学び、自身の研修を深めるとともに、ACとしての実践の事例を聞きたい。
(通学区域AC)

地域支援づくりへの提案

- ① 現在、特別支援学校が担っている、市町立の小中学校への研修、学級づくり・授業づくりへの助言等を、通学区域の市町のACが行い、事案により特別支援学校Coが協働する。
→より効果的な巡回指導へ
(広域だけでなく市町にもACをーネットワークづくり)
※1 普通校の実情への理解
※2 学校の特性を生かした支援
(長所を生かす・・・集団の統括→普通校、TT指導→特別支援学校)
※3 事案によって、広域のACと特別支援学校Coが協働して支援
(相談手順マニュアルの周知)
※4 ACが校外に出やすい体制
- ② 県立特別支援学校は、県立高校の通級指導への協力・提携をさらに深める。